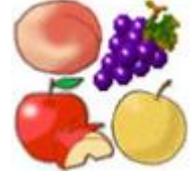


令和2年度 果樹情報 第14号

(令和2年10月20日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (果樹研究所)

10月前半の平均気温は16.6℃で平年並に経過しました。この期間の降水量は45mmで平年比72%、日照時間は37.3時間で平年比49%といずれも平年より少なく経過しました。

2 土壌の水分状況 (果樹研究所)

10月13日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで1.5、深さ40cmで1.5、深さ60cmでは1.5となっており、過湿状態にあります(図1)。

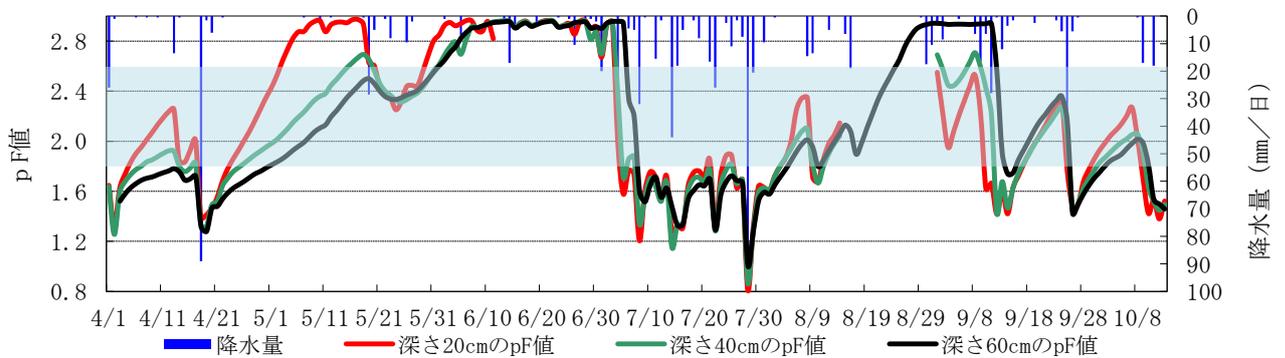


図1 土壌 pF 値の推移 (果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)
図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6) を示します。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

3 生育概況 (10月15日現在、果樹研究所)

(1) なし

ア 主要品種の収穫期と果実品質

「ラ・フランス」の収穫盛期は平年より6日早くなりました。収穫時の平均果重及び硬度は平年並、デンプン指数は平年より高く、糖度は平年よりやや低くなりました。

表1 なし主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫開始日 (月/日)			収穫盛期 (月/日)			収穫終期 (月/日)			果実重 (g)			糖度 (° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/21	8/25	8/21	8/25	8/31	8/23	8/27	9/6	8/26	413	380	403	12.1	12.6	11.3
豊水	9/7	9/13	9/4	9/13	9/19	9/8	9/17	9/25	9/18	432	429	510	12.6	12.8	12.5
二十世紀	9/15	9/18	9/11	9/15	9/22	9/13	9/15	9/27	9/18	388	401	441	10.8	11.2	10.2
ラ・フランス	10/1	10/6	9/27	10/1	10/7	9/27	10/1	10/9	9/27	286	294	322	12.1	12.9	12.4

注) 平年値は、1986~2015年(ラ・フランスは1987~2015年の平均値。未は未確定。

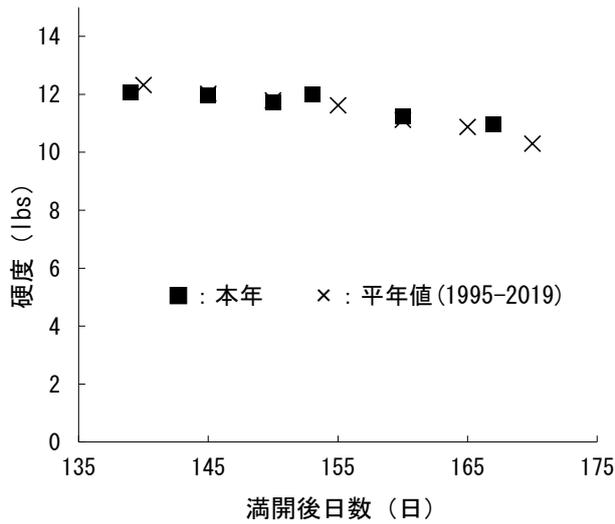


図2 「ラ・フランス」の果実硬度の推移

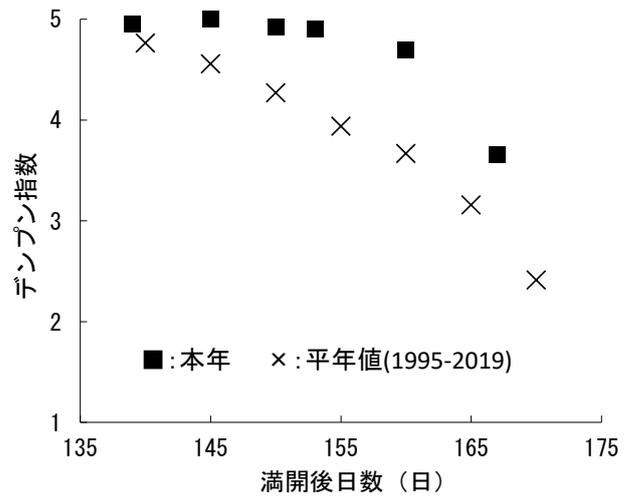


図3 「ラ・フランス」のデンプン指数の推移

(2) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が78.4mmで平年比96%、横径が86.7mmで平年比97%と平年よりやや小さくなっています。満開後日数の体積指数で比較すると、平年比90%で平年より小さい状況です。

イ 主要品種の収穫期と果実品質

シナノスイート (M9 ナガノ台) の収穫開始は、10月5日で平年並でした。果実重は252gと平年より小さく、糖度は16.0と平年より高くなりました。

表2 りんご主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫開始日 (月/日)			収穫盛期 (月/日)			収穫終期 (月/日)			果実重 (g)			糖度 (° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
つがる	8/25	8/29	8/26	8/26	9/3	8/26	9/2	9/8	8/29	244	284	336	12.8	12.7	12.4
シナノスイート	10/5	10/5	10/10	10/8	10/9	10/14	10/13	10/14	10/24	252	331	431	16.0	14.7	13.7
王林	未	10/23	10/22	未	10/25	10/24	未	10/29	10/26	未	311	379	未	14.2	12.9
ふじ	未	11/13	11/11	未	11/16	11/18	未	11/26	11/27	未	352	380	未	15.3	14.1

注) 平年値は、「つがる」は1976～2013年、「シナノスイート」は2012～2016年、「王林」は1981～2013年、「ふじ」は1976～2013年の平均値。未は未確定値。

ウ 「ふじ」の成熟状況

「ふじ」の満開後164日(10月13日)の成熟調査では、硬度は12.9ポンドで平年より低く、デンプン指数は4.3で平年より高くなりました。果皮に含まれるクロロフィル含量は平年より低く、アントシアニン含量は平年より高く推移しています。

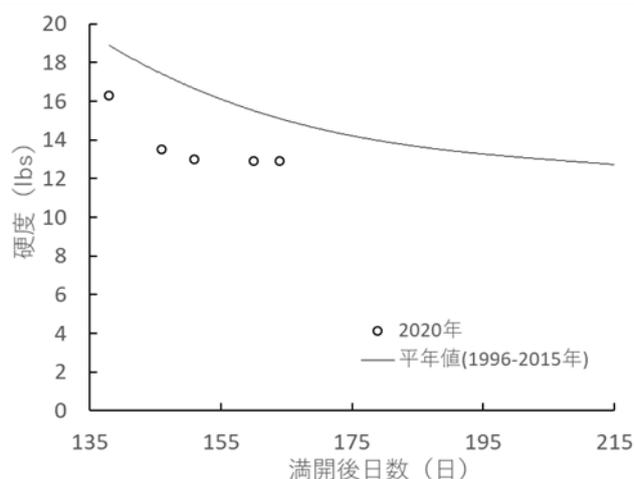


図4 「ふじ」の果肉硬度の推移

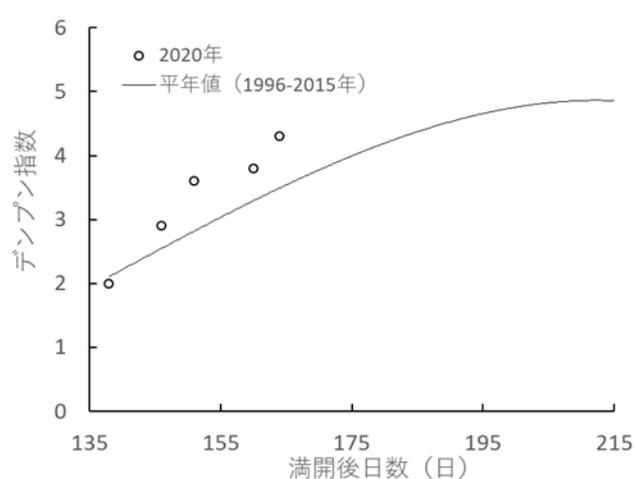


図5 「ふじ」のデンプン指数の推移

4 栽培上の留意点

(1) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

摘葉、玉回しは遅れないように実施しましょう。

イ 「玉林」の収穫

未熟果（緑色果）を収穫すると食味が劣るため、果面全体に果点が浮き上がってきた果実から2～3回に分けて収穫しましょう。収穫適期は、果皮色が全体に黄色味を帯び、がくあ部付近にやや緑色が残っている状態の時です。果面から緑色が消えた果実は貯蔵性が低くなるため収穫遅れに注意しましょう。

ウ 「ふじ」の収穫

収穫に当たっては、蜜入りの状態に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア モモせん孔細菌病

中通り北部では、9月上旬の新梢葉における発生ほ場割合は、平年より高い状況であることから、今後の降雨等の影響により感染拡大が懸念される状況にあります。秋期防除を確実に実施して越冬菌密度の低下を図りましょう（令和2年9月2日付け病虫害発生予察情報・注意報第7号）。

防除薬剤は表3のいずれかの薬剤を選択し、9月上旬～10月中旬に2週間間隔で3回散布しましょう。ただし、コサイド3000は高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので注意しましょう。

表3 モモせん孔細菌病の使用薬剤

作物名	対象病虫害名	薬剤名	希釈倍数
モモ、 ネクタリン	せん孔細菌病	ICボルドー412	30倍
		4-12式ボルドー液 (モモのみの登録)	—
		コサイド3000 (クレフノン 100倍加用)	2,000倍
		ムッシュボルドーDF (クレフノン 100倍加用)	500倍

※農薬の使用に当たっては、農薬のラベルを必ず確認すること。

イ なし黒星病

9月上旬の新梢葉における発生ほ場割合は、県内全域で平年より高い状況にあるため、注意が必要です（令和2年9月15日付け病害虫発生予察情報・注意報第8号）。

本病の発生が多かった園では越冬菌密度の低下を図るため、秋期防除を徹底しましょう。特に、10月中旬～11月中旬は翌年の芽基部病斑の発生原因となる病原菌の芽りん片生組織（図6）への感染が多くなる時期であるため（図7）、落葉率80%頃を最終散布の目安とし、10月中旬～11月上旬にオーソサイド水和剤80を600倍に希釈し、2週間間隔で3回程度散布しましょう。また、防除を行う際は、枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましょう。

病原菌は罹病落葉でも越冬し、翌年の重要な伝染源となるため、落葉処理も併せて実施しましょう。



図6 露出した芽りん片生組織（杵内）

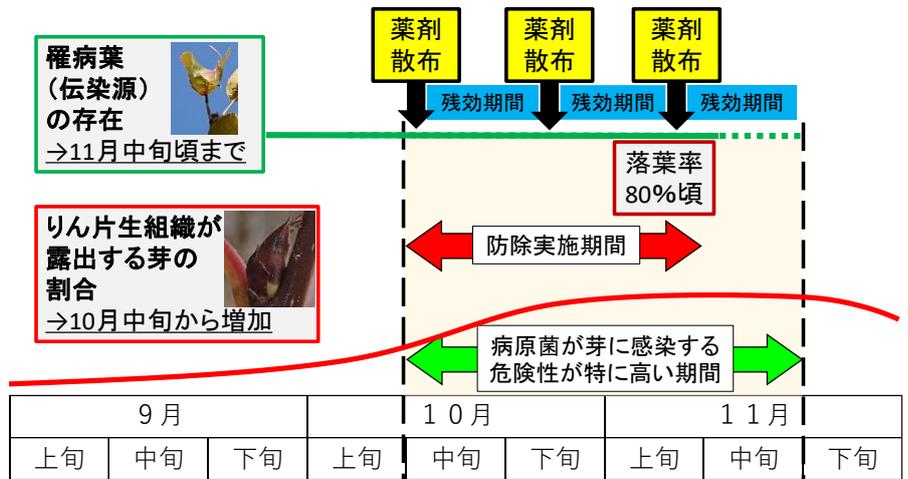


図7 なしの生育及び病原菌の生態に基づく10月中旬以降の秋期防除の考え方

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>